

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
31

2013 霜月・師走



専有道場の拡充例

人が集い、感化し合って身心を磨く
道院としての足場を固める

人が集い、感化し合って身心を磨く 道院としての足場を固める

人づくりによる国づくりという金剛禅運動の拠点が全国各地の道院である。地に足を着けた金剛禅運動の充実とは、道院活動の充実そのものにほかならない。今号では、周りの方々の協力を得て、更に専有道場を広げた道院の事例を紹介する。



金剛禅教団は「運動体」である。その使命は、慈悲心と勇気と行動力にあふれた社会の指導者を増やすこと、というものである。これは、上に立つものの質によって社会が大きく変わることを、敗戦時に痛感した開祖・宗道臣（以下、開祖）の体験から生まれたものである。各地の道院は、この使命を果たすべく活動を展開している。

専有道場は、金剛禅の布教、門信徒を教化育成する「足場」となる。足場が確立され充実しているからこそ、地に足を着けた金剛禅運動が展開できる。

人々が集い、教えに触れ、語り合い、感化し合って身心を磨き、生きる喜びを感じる場、そんな道院を目指し、社会への使命を果たしていく

ことが大切である。

道院では、通常の拳けん禅ぜん一如いちにょの修行はもちろん、入門式、開祖忌法要、達磨祭だるま、新春法会といった節目となる儀式行事、その他さまざまな活動が行われている。また、専有道場の広さによっては、教区、小教区活動の場となる道院もある。

充実した道院活動を展開している道院長に共通するのは、まず自らが行動していることである。すると、門信徒が道院長とともに走ってくれるだけでなく、これまで交流を深め信頼関係を築いてきた地域の方々や支援者から協力を得られ、更に専有道場を広げることも可能になるのだ。まさに自力が他力を呼ぶのである。

専有道場の意義・必要性について、ある道院長に話を伺った。次ページの詩を基に話をしてくれた。



「表札」 石垣りん

自分の住むところには
自分で表札を出すにかぎる。

自分の寝泊まりする場所に
他人がかけてくれる表札は
いつもろくなことはない。

病院へ入院したら
病室の名札には石垣りん様と
様がついた。

旅館に泊っても
部屋の外に名前は出ないが
やがて焼場のかまにはいと
とじた扉の上に
石垣りん殿と札が下がるだろう
そのとき私がこぼれるか？

様も
殿も
付いてはいけない。

自分の住む所には
自分の手で表札をかけるに限る。

精神の在り場所も
ハタから表札をかけられてはならない
石垣りん
それでよい。

「私は、この詩には妻の朗読で出合いました。そのとき、自然と背筋が伸び、何かを感じました。『精神の在り場所』、我々の精神の在り場所は何処か——改めてこれを考えさせられました。」

この詩にある、『自分の住むところ』を『教えを広め、幸福運動を展開するところ』に置き換えてみる。また、『部屋』や『病室』を、『体育館』、『公共施設』に、そして『石垣りん』を『金剛禅』あるいは『〇〇道院』に置き換えて、もう一度詩を眺めてみました。

このとき初めて、開創時の開祖の強い思いや、門下生とともに汗を流して道院を建て、修練ができる場所を自分たちの手でこしらえてきた諸先輩、諸先生方の精神の在り場所に対する思いに、私の心は包み込まれたのです」

ある企業に勤務しているこの道院長は、金剛禅の教えの下に、職場の同僚、部下や後輩の育成に取り組まれている。そこで、「後輩社員が問題・課題にぶつかったとき、どのようなアドバイスをしているのか」を尋ねてみたところ、次のように答えられた。

「例えば、仕事で何か行き詰まっ

最近、更に専有道場を広げた道院長の声

山形県 山形いずみ道院

道院長 後藤学

人脈により
拡大

市内のほとんどの施設を探して見つけることができた。専有道場だと自由に活動することができ、また勉強会なども行える。足を使って探してみるることによって見つけられる。また、知り合いや、つてを使って探してみるのも効率的だと思う。

群馬県 群馬北毛道院

道院長 樋口雅人

家族とともに

家族全員の同意を得ることができた。特に妻の理解を得たことがいちばん大きい。建てた後の道院活動は充実しており、決断は正しかったと感じている。専有道場の長所を生かし、活動を充実させたい。また近隣道院との交流も深めていきたい。

岐阜県 美の白川道院

道院長 藤井新一

地域との
つながり

地域コミュニティとのつながりを大切にしてきた。「何かをすることで成果を得たい」といった考えではなく、あくまで地域とのつながりを大切にしたい。そのような行動の蓄積の結果としてチャンスを得ることができたと思う。

埼玉県 武蔵浦和道院

道院長 堀江誠

道院活動
の充実

礼拝施設のある専有道場では、いつでも宗教活動ができる。また、保護者の参加も増えた。修練日以外に懇親会なども開き、親睦を深めることができる。

静岡県 藤枝道院

道院長 大橋昭吾

つながりが大切

現在休職中の門信徒とも定期的に交流があり、相談したところ、会社の一部を貸していただくことができた。人間関係を大切にしてきた結果だと思う。

神奈川県 秦野道院

道院長 飯田昌一

高まる
宣伝効果

専有道場には道院の備品や書物を置くことができる。また学科の勉強や行事も催せる。また、宣伝効果が高くなった。

千葉県 成田道院

道院長 勝田茂勝

信頼関係の
構築

十分な広さのある道場を確保することは確かに難しい。私の場合、運よく退職金や土地の所有もあり、道場を建てる環境が整っていた。常に地区との協力関係、また相談できる関係を構築しておくことが専有道場確保への可能性にもつながる。

三重県 三重島ヶ原道院

道院長 川向啓造

日々の交流

日頃から、夏祭りといった地域活動に道院として参加し、地域の人と交流があった。その中で青少年の育成や少林寺拳法の教えが認められ、土地を貸していただいた。

大阪府 大阪三島道院

道院長 田島星斗

理解を深め
教えを広める

大家に「あ・うん」を読んでいただき、少林寺拳法への理解を持っていただいた。また、地元商店街の行事で裏方としてお手伝いしてきたこともあり、賃料も安くしていただいている。これからも気持ちを引き締めて活動していきたい。

ているとします。そのとき私はその社員が理解できるレベルにまで行つて、一緒になって、今抱えている問題を切り分け、分解するんです。そして、その一つ一つに対して、これはできる、これはできない、できない場合、何が原因なのか、その原因を克服するためにはどうすればよいのか、代案が他にないのか、などを考え、そしてある一つの方向性を示してあげるのです。

こうやって具体的に問題解決に向けて取り組むことで、社員は解決の糸口を見いだすことができるようになります」

加えて、次のようにも補足された。「開祖の言葉ではありませんが、『できない』と思うからできないのです。『できる』『やれる』と強く思えば、必ずできます。

また、問題を漠然と抱えていたのでは、何も解決しません。問題を分析し、『できない』項目をリストに書き出し、一つずつ消去していくのです。

更に、先入観を捨て、視点を変えてみることも解決の糸口を見つければ、必ず代案が浮かんできます」

更に道院長は、今後の活動に向け

て、次のように抱負を述べている。「道院間での研修・イベントを催して、拳士同士で交流が深められ、小教区の中から次世代の指導者が一人、また一人と育っていく環境をつくっていききたい。

そのためには、やはり道院長同士で、助け合い、励まし合い、知恵を出し合うしかありません。開祖はそういう人間関係を最も大切にしたのではないかと思います」

全国的に見ても、小教区の活動が積極的である地域は、より充実した道院活動を展開している。一方、同じ小教区内でも、道院同士の交流が希薄なところの活動は足踏み状態となっている。小教区や近隣道院の道院長間で情報を共有することも大に行っていたいただきたい。

開祖がつくりたかった、いざというときに団結し協力し合える人間関係。困ったときにこそ日頃の行動がものをいう。共に知恵を絞る、力を出し合い問題を乗り越えるために力を貸してくれる人間関係を築いていくことが大切である。信頼関係を築くには時間もかかる。しかし、諦めたり、できないと思ったときが終わりとなる。道院長は誠実に情熱を持って前に進むしかないのだ。



開祖語録 ダイジェスト

1975年9月15日
1975年度
第三次指導者講習会

ふだん着の 金剛禅

東京別院 別院長 大澤 隆

言葉の響き

言葉の響きは大切である。「おはようございます」の挨拶で体内の細胞がよい方向に向く。「挨拶、心に響くよい声」「心に響くよい音楽」で体内の細胞をよき方向へ導くことを、最善の健康増進への始まりと心掛けています。

身近なところから小さな幸せを積み重ねるから大調和となり幸せも大きく膨らむ。言施ごんせ、「施しは人のためならず」である。よき言葉の響き

は自分へ帰ってくる大切な施しである。毎日、大御力おみちからであるダーマを礼拝、信仰する。声を響かせダーマと調和し心と身体を整える。金剛禅の教えも修練も同じである。

人生を大きく変える出会いや言葉は縁起のつとの法に則したがってその人それぞれに施される。私の灯ともはどれだけ自らを照らしているのか、どれだけ周りを明るくしているのだろうか。職場、道院、家庭、地域の中で己の

灯を寄るべとし、人のため、世のために響き照らせる自分に変えたいと毎日を過ごしている。

自助・共助・近助、身近なところから小さな幸せを積み重ねるから幸せも大きく膨らむ。そんな毎日に金剛禅意識が加わり運動となれば大きなエネルギーとなって平和で豊かな社会がつくり出せると思う。まず「自己確立」「おはようございます」から今日も始まる。

15年も20年も少林寺拳法をやつて、八段や七段というとても、自分の道場では弟子が20人か30人が限度の人もおる。一方、まだ三段か四段なのに、弟子が来て来て困つて、100人をオーバーして、多いところは500人を超してる例もある。なぜそんなに違うんでしょうかね。

どこが違うかといえば、人間の信頼度が違う。拳技の信用度という点では、例えば三段より五段の方が信用があるのは当たり前ですね。しかし、免状を持つてるから信用はするけれども、人間としちゃ信頼できない。だからだんだん弟子が減っていくのじゃないかな。

今、君たち、今日来てるのは半分

以上、助教、助士、将来の道院長候補者ですね。君たちが今おる道場が、もし行き詰まっておつたら、それは門下生の信頼度が薄れてるのである、何らかの理由によつて。いちばん大事なものは道院長であるが、道院長だけではないぞ。道場長であり、あるいは助教である人の信頼度の問題である。

なぜなのか。その助教になる人の質が悪いからである。技はできるかもしれないけど、人間的に信頼されていない。冷たい。技ばかり。いろ

んなことがある。君たちの道場をもういつぺん、反省してみようじゃないか。

うちの道場はなぜこんなに大勢来て困るんでしょうかと、現にそういう悩みを訴えてる人もおりますよ。そういうところは、やっぱり、行かないかんと思うものを持つから来るんじゃないかな。どうでもいいんだつたら、恐らく来ない。やっぱり行きたい、あるいは行ってみなければならんと思う。その気持ちが強いかから来てると思うんです。

拳技の信用度、人間の信頼度

無始よりこのかた……



修練を終えて汗だくの道衣のまま道場に座

り込んでの話。「宗派や無宗教かどうかにかかわらず『われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこへ行くのか』などということをは考えるものだね。鎮魂行のある言葉に來ると時折そう思う」と彼は言った。それはゴーギャンの絵の題。

ゴーギャンは11歳から5年間神学校で学んだが、後半生はキリスト教にすぐ反発したといわれている。それにもかかわらず、神学校時代に司教から教えられたこの霊的ともいえる魂への問いかけは頭から離れなかった。

「科学技術が高度に発達し知識に富む文明社会のフランスから、自然の神々の住むタヒチに行つてあの作品を書いたのだから、信仰のあるなしや信仰の対象に関係なく、『始』や『生まれる前の自分』から逆に『生き方』を考える。人にはその問いは共通なのかな」

誰一人として自分の経験として語ることができない「私の死」や「未生の自分」を「想像する力」を持つ「人」だからこそ、魂の問題を抱える。それゆえ全ての人には宗教性があり仏性がある（一切衆生悉有仏性）といえるのか

もしれない。

「開祖は『苦の根源は、全ては生きたいと思いつながら死に至るという矛盾にある』と言われたが、『死』は人にとってやはり最大の課題（生死事大）だね」

業・輪廻思想、自業自得の自己責任倫理と来世は今生の行いより決定されるという因果応報、それらは仏教成立時の支配的な考えだ。

『死と再生の思想』は古代エジプトやそこら中にあったものだが、古代インドでの輪廻転生は、再死と生の苦しみが続くといふ考えだから、無限の苦しみそのもの。輪廻転生からの永遠の脱却（解脱）を望んだでしょう。解脱を、生と死からの離脱。『不死』『涅槃』（ニルバーナ）、『彼岸』。仏教の『不死』とは、肉体的な不死でも、この身のまま極楽に行けるという話ではないんだ」

今は、死よりもさまざまな人間関係や生活苦から生ずる悩みで『自死』に至る場合も多い。そして、再生の苦しみよりも『死』による自己の消滅、死に至るまでの肉体的苦痛や不安の方が苦しみだ。

人間の肉体細胞は、成長・再生を繰り返し

ながらやがてその能力を失い、死を迎えるということは自然の条件。そう分かつていても、核家族化や少子化で家庭の中から年寄りが見えなくなり、「老」「死」を日常から遠ざけられた非現実的なこと、観念的なことになってしまう。老いること、歳を取ることは避けたいことのひとつとなり、老人が智者であることは童話の世界の話。

「おい、歳を取ることって悪いことかい。そりゃあガタは来るけど、この旅は誰もがone-way ticket。偶然貫つた運のよさに感謝。限りある生を誠実に生き抜くことは意味がある。そう思う。人間として自分を高める修行を続けることに価値があると思う。老いた賢者を目指して、生涯の修行者。いいじゃないか」

今ある「生」から将来の「死」をみると、老いを遅らせ、病を直し、安定した経済生活を維持し、平和な人が人としての尊厳が守られる社会づくりが課題。一方、「未生」と「死」から今ある「生」を観るとき、人として自らの霊性を高めることが文化や民族を超えた共通の課題。それを宗教というかどうかにかかわらず。

道



魂に負担のかからない生き方

宮城塩竈道院 道院長 鎌田 礼二

最近、遺伝子の解明がかなり進んでいるよう

である。遺伝子の配列で病気になる可能性が分かるまでになってきた。ハリウッドスターのアンジェリーナ・ジョリーさんが乳がん予防のために、両胸の乳腺切除の手術を受け世界中の関心を集めた。乳がんになるリスクは87%とのことで、残りの13%は食生活などの生活習慣やストレスであるとのことである。

私なら（もちろん私が女性なら）残り13%もあるのだから食生活に気をつけ、定期的に精密な健康診断を受け、兆候が認められた時点で乳腺切除の手術を受けてもいいのではと考えるだろう。

また最近、女性の結婚年齢の上昇がみられ出産の高齢化が進んでいる。母親の年齢が高まるに従い生まれてくる子供の奇形の割合も高くなるそうである。今、身ごもっている子供が正常な子なのか、奇形なのかについても分かる時代になっている。そんな事情もあり若いときの卵を凍結保存し、結婚後に奇形の防止のためその卵を使うということも検討されているようである。

これも私ならしたくない。これは私の論理

（私の主観的な考えであるが、若い時点とある程度年齢を重ねた時点とでは、DNAに何らかの情報が加わってくるのではないかと。つまり、ある程度DNAに今までの人生や克^かちえてきた情報が加わってくると思うからだ。高齢になればある程度リスクもあるが、プラス要因もあるのではないだろうか。

7月に行われた参議院選挙で自民党が圧勝し、民主党が惨敗した。この選挙をにらみいるんな動きがあった。民主党政権下で大臣まで務めた方などが、離党し無所属に。また、自民党から副大臣まで務めた方などが推薦を受けられず離党し、他の党へ移籍するといったケースが今回かなり多く見られた。

こうした選挙に勝つためだけに離党や他の党に移籍することは、自分の心と有権者そして今までお世話になった党所属の議員の方々に恥じないのだろうか。私はこういった風見鶏的な行動はとりたくない。やはり政治家になる動機や初心を大切にしたいものである。一方、金剛禪教団へと目を向ければ、今、全国の道院では専有道場の充実に向け進んでいる。もちろん、民間の施設を借り受けても

かまわない。

私は、28年前の新設講習会で、易筋行^{えつきんぎょう}と鎮魂行・法話そして入門式やその他の行事を行うには専有道場以外にないと確信し、本部道院を参考にして専有道場を建設した。私は、礼拝施設を有する専有道場で日々の修練と宗教活動を行い、人づくりをするところが道院だと確信している。

大変失礼な言い方ではあるが、現在、専有道場を充実させていない道院については、ただ単に専有道場の充実を先延ばしにしてきたにすぎないのではないだろうか。この際、何としても道院設立時の初心に立ち返り、専有道場を充実させ、本来の道院としての活動をお願いしたい。

いろいろと事例を挙げたが、事例の生き方は心（魂）に負担がかかるのではないだろうか。金剛禪がどうのこうのといった問題ではなく、人間性の問題だと私は思う。

私は、人を裏切らず、初心を忘れず、一貫性のある、心（魂）に恥じない生き方をしたい。それが魂に負担のかからない生き方ではないだろうか。

ダイジェスト

×



志をつなぐ

vol.16

ごとう しょういち 151期生
後藤 昭一 大導師正範士八段

技の中に真理がある。
努力と工夫が人を変えていく

開祖は単なる武道家ではなく、宗教家、事業家としても一流だったと思います。よく努力と工夫に勝るものはない、だから600も技をつくったんだとおっしゃっていました。喧嘩に勝つだけなら転身蹴を一つ覚えておけばよくて、一生懸命努力するための手段として少林寺拳法をつくられたのです。しかも、少林寺拳道ではなくて少林寺拳法、森羅

万象を超越した法の下、私たちは修行しています。矜持を持って金剛禅布教に努めてまいりました。

私は技の中に真理があると思っています。研鑽こそが人を少しづつでも変えていく。これからは捲まず撓まず精進し、納得のいく人生にしたいと思います。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼1979年、第5次訪中(週刊誌「サンデー毎日」グラビアより)



ダイジェスト

×



道院長 元気の素

vol.16

いしかりりょくえん 道院
石狩 緑苑 道院長 伊藤 譲一 (54歳)

少 林 寺 拳 法 を 学 ぶ 究 極 の 目 的 は、
生 き 方 を 学 ぶ こ と

——道院での指導方針を教えてください。

拳技の指導自体は優秀な助教や指導担当の幹部がいるので安心していきます。私の役目はもっぱら拳士の行動や言葉を細かく観察したり、家庭での様子などを教えてもらったりし、拳士が楽しく喜びを持って修行できる環境をつくるマネージャー的存在と思っています。もちろん、魂

の師たる道院長になるため、私自身も怠らず修行に励んでいます。

私は少林寺拳法を学ぶ究極の目的は「生き方を学ぶこと」であると確信しています。ですから、教えを意識させ、学ぶことに誇りを感じられるような修行の仕掛けや継続するための環境づくりを大切にしています。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼少年指導会議



帰山行事

拳士のふるさと本山 でつくる夏の思い出

7月28日に夏の帰山および本部修練合同の行事が行われた。

帰山行事は、道院拳士が本山の雰囲気に触れることで、日々の修練意欲高揚の一助となるよう毎年数回開催されている。今回帰山した道院のうち、奈良郡山城道院（吉村雅至道院長）は、



多くの拳士、保護者とともに2002年から12年連続で夏の帰山行事に参加している。吉村道院長によると「帰山を通して拳士や保護者の方々へ、組織の活動に対する理解や関心を深めていただく機会としている」とのこと。今回参加した他の道院

からも「帰山を通してよい刺激を受け、いつも以上にやる気が増した」という声が聞かれた。

今夏の帰山行事は、20所属462人が参加した。朝、仁王門で本山の職員に出迎えられた拳士は、所属ごとに浦田武尚代表とともに本堂の祭壇前で記念写真を撮った。全員での鎮魂行の後、浦田代表から「少林寺拳法は他人と勝敗を争うものではない」と修行における姿勢について言葉をかけられた。その後は、各会場に分かれて約90分間、技術修練・法話聴聞

および作務^{さむ}が行われた。少年拳士も一般拳士も、他道院の拳士とすぐに打ち解け合い、楽しみな汗を流しているのが印象的だった。技術修練の時間に並行して行われている保護者対象としたミニ講座では、金剛禪の教えを子育てに生かすヒントが聴講者へ説明され、好評であった。

最後に、新井庸弘一般財団法人少林寺拳法連盟会長が「そのときそのときを大切に、一生懸命生きていきましょう」と挨拶をされ、全てのプログラムが終了した。（黒田達也）

※毎年夏の帰山行事には、夏休みを利用して、たくさん拳士が参加します。帰山行事は、他の道院拳士と交流でき、本山の雰囲気に触れるよい機会です。来年はぜひ帰山を計画してみてください。金剛禪サイトに帰山行事などの活動報告を掲載しています。ぜひご覧ください。

大阪狭山道院

当道院では、拳士、保護者に少林寺拳法への理解を深めるため、定期的な帰山行事への参加をしております。

少年拳士は、少林寺拳法の発祥の地を自身の目で見て、体験することで、地域の道院以外にも、日本、世界に少林寺拳法の仲間がいることを理解する機会

となっております。一般拳士は、本山の一流の技術・指導を体感し、その体験を通して自己確立と日々の修練での指導（自他共楽）への活力として、リフレッシュしてくれています。

また保護者は本山主催のプログラムに参加いただいております。法話と修練見学を通して日々の活動へのご理解をいただくよい機会となっております。

このようなよい機会を与えてくれる帰山行事は、本山職員の皆様が一生懸命汗を流して、運営、指導していただけるからこそ、毎回非常に感謝しております。また次の機会には、更に新しい仲間を連れ、帰ってくるため日々精進したいと思っております。（山崎武宏）

我孫子道院

7月27日・28日の1泊2日で、私たち拳士の心のふるさとである、金剛禪総本山少林寺に帰山してまいりました。例年は夏合宿として、自分たちの専有道場に寝泊まりしますが、4年に1度は、皆で本山に帰山することにしています。

ちなみに今回の帰山合宿のテーマは「自己確立」と「自他共楽」（自分のことは自分でやる。みんなと一緒に楽しむ）。せつ

かくの機会なので貪欲に、見て、訊いて、試して、学び、余すところなく吸収してほしいと伝えておきました。

初日は少林寺拳法発祥の地五畳半道場を見学しました。本山職員から、創始当時の日本や多度津町の状況、開祖の志についてレクチャーがあり、また66年前に産声を上げた五畳半道場を見学したことで、書籍や資料を見ただけでは分からない、ホンモノの原点に触れ、拳士一同、何かを感じ取ってくれた様子でした。

2日目、いよいよ帰山行事に参加。仁王門で本山の先生方が出迎えてくださり「お帰りなさい」と温かい笑顔で迎えてくれました。初めての帰山で緊張していた拳士たちも、少し緊張が解けた様子で「ただいま」と合掌礼。入山後、記念撮影、開祖の霊廟に帰山のご報告、鎮魂行、ご挨拶を拝聴した後、技術修練、憧れの本山の先生方じきじきのご指導で汗を流し、最後に模範演武と、技法紹介を見学して、12時に帰山行事終了。その後はお弁当を頂き、大雁塔や本山内を見学し、1時30分ごろ名残惜しくも本山を下山しました。（藤田竜太）

僧階昇任者

権大導師

■2013年8月1日付

加部 光三(仙台宮城野道院)
中川 純(専門学校禅林学園)

中導師

■2013年6月1日付

白崎 裕紹(滋賀草津道院)

権中導師

■2013年8月1日付

三好 浩孝(札幌宮の森道院)
山田 浩之(石狩北道院)
池前 武(石狩北道院)
小島原 敬信(山形中部道院)
吉田 和雄(天童長岡道院)
吉田 宏子(天童長岡道院)

塚本 真(千葉松尾道院)

長田 隆(市川北道院)

木村 亜紀(市原千種道院)

中沢 徹(東京千代田道院)

鈴木 司郎(浅草今戸道院)

相原 茂(三軒茶屋道院)

伴 清司(清水袖師道院)

江村 正夫(名古屋吹上道院)

西川 澄重(名古屋野立道院)

久田 剛士(名古屋太子道院)

伊藤 利浩(四日市僧伽道院)

ミグダリスキー・ウラディーミ
ル(精華道院)

公文 正克(伊予松前道院)

藤田 健太郎(大牟田新世道院)

お布施

▷愛媛県教区	30,000円
▷福岡県教区	30,000円
▷福島県教区	30,000円
▷西宮今津道院(設立40周年記念)	10,000円
▷豊田末野原道院道院長 服部 俊美	10,000円

7月帰山

▷福岡西道院	20,000円
▷美作勝央道院	10,000円
▷滋賀守山道院	30,000円
▷三田南道院	30,000円

11月の本山行事

9日(土)~10日(日) 少年部指導講習会

10日(日) 僧階補任講習(大導師・中導師)

16日(土) 級拳士講習会(東京)

24日(日) 帰山

・2014年新春法会 2014年1月12日(日)・

本山で行われる新年最初の行事。一年の精進を誓い、
元気に初稽古を行います。ぜひご参加ください。

僧階の補任要件について

僧階への取り組み、計画的に進めていますか。

僧籍に編入し、更に上位資格の僧階補任を受けるためには、レポートの作成とともに、それぞれの資格で満たすべき要件があります。今一度、各要件をご確認いただき、計画的な僧階への取り組みをお願いいたします。

また、12月1日付の少導師・権中導師・権大導師の補任請願を、11月15日まで受け付けております。特に、まだ僧籍に入られておらず、少導師の要件を満たしている方には、ぜひとも金剛禪布教者の第一歩である少導師補任へと歩み出していただきたいと思ひます。

金剛禪の教を深く学ぶことによる気づきと、日常実践を通じての体感を、自己成長への楽しみとして取り組んでみませんか。少導師の補任を希望される方は、お早めに道院長にお申し出ください。

	少導師	権中導師	中導師	権大導師	大導師	少法師
法階	少拳士以上		中拳士以上		正拳士以上	准範士以上
年齢	17歳以上		22歳以上		28歳以上	38歳以上
活動実績	道院参座	2か年以上	2か年以上	3か年以上	3か年以上	5か年以上
レポート		5題	10題	7題	7題	7題
僧階補任講習			受講必須		受講必須	受講必須
年間の補任回数	年3回 4・8・12月	年3回 4・8・12月	年2回 7・11月	年3回 4・8・12月	年2回 7・11月	年1回 9月

僧階は、金剛禪を正しく伝道し、また「行」としての少林寺拳法を正しく指導していくことを目的に、金剛禪総本山少林寺に定められた布教者の資格です。



※それぞれの資格において定められた要件(法階・年齢・活動実績)を満たし、履修科目(レポート)を完了すると上位昇任への案内メールが送られます。
※中導師・大導師・少法師については、全ての要件を満たした後、総仕上げとして僧階補任講習の受講が必須です。少法師の補任は道院長のみです。
※各資格の補任日は、少導師・権中導師・権大導師は各補任月の1日。中導師・大導師・少法師は僧階補任講習の開催日です。

訃報

しんどう かつのり
進藤 勝則

刈谷中部道院道院長、200期生、大導師正範士七段
2013年8月31日逝去、満66歳

ふじおか ひろし
藤岡 宏

山陽網干道院元道院長、136期生、大導師大範士八段
2013年9月19日逝去、満73歳

告示

元 堺初芝道院 後戸 文春氏に対し、2013年7月21日付にて金剛禪総本山少林寺規則施行細則第7条第1項第1号2号により、以下のとおりとする。

僧階の資格を剥奪して、破門処分とする。

編集後記 ▶ まもなく平成の世も四半世紀、昭和のよき時代を振り返るニュースが報道される反面、歪み^{ゆが}欠陥の報道も少なくない。科学や産業の進歩で豊かになった現代社会で置き去りになってきた人の質の問題、まさに改革が必要であろう。▶ 便利な時代になろうとも忘れてはならない「徳育」たる金剛禅教育、私たちが社会に^{かんよう}涵養しつつダーマ信仰とともに調和力の大切さも教え広めなければならないと思う。未来に生きる子供たちに夢や希望を与えとともに、震災復興、CO₂削減、社会貢献を通じて金剛禅運動を「進」めよう。(お)

表紙 ▶ **河合 修** 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。

中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト ▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>

2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺

あ・うん | vol. **31**
金剛禅総本山少林寺広報誌 2013 霜月・師走

2013年11月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：浦田武尚

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：大澤 隆

企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本：(株)ブル・ドック

広報誌『あ・うん』追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき10部ずつ(一般財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail : fukyoka@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

大和一之関道院 中村 袈巳 初心(振り返れば)

私が生まれ故郷の熊本県から神奈川県に出してきたのは1970(昭和45)年4月のことと記憶しています。従業員30人程度の材木問屋に就職したものの、こんなに都会の暮らしが楽しいものとは!! 3〜4年は自分の住まいに帰ることも忘れ遊び回っていました。もちろんそんな生活でしたから職場も転々となりました、給料では足りるはずもなく、際どい生活も強いられました。ふと初心に返って見たとき、こんなはずではなかった、田舎から出てきたときは必ず自分の店を持つと決めてきたのに、もう一度頑張ってみようと再就職し仕事に打ち込みました。そのころ、少林寺拳法の存在を知り、ある先生に紹介してもらい近く

の道院の門を叩きました。本当に楽しく心穏やかで、こんなにいいものなら社会貢献できると思い自分も道院をつくると心に決めたのでした。ところが働いていた会社は3年目に倒産したのです。もう働くところはない……ここが天から与えられたチャンスではなからうか? そう思い少林寺拳法より一足先に自分で商売を始めました。苦難の道は続くのですが「石の上にも三年」、何とか商売も軌道に乗り、いよいよ次は道院設立が使命と思い、独立したのが88年2月のことです。何事も初心を貫くと実現するもの、人生諦めたら、全てが終わりです。これからも全力で人生を送りたいと思います。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

Kongo Ken, Tate gassho gatame



宗門の行としての少林寺拳法

こんごうけん たてがっしょうがため
金剛拳 立合掌固

腕十字固よりあおむけに倒した後、瞬時に我の片足を相手の頭部下に差し入れ、逃れんとする相手の回転を止める。相手の肘を我の両膝で包むがごとく挟み、片手で相手の腕を引き上げ、もう片方の手を相手の手と交差合掌させ、捻^ねじめるように押さえつける。引き上げと押さえつけのバランスが重要である。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：永安正樹 准範士六段 攻者：飯野貴嗣 准範士六段



SHORINJIKEMPO